

5. 金沢大学宝町遺跡 医学部受水槽地点立ち会い調査

(1) はじめに

医学部薬草園南端付近に位置する。受水槽設置に伴い、立ち会い調査が実施された。

調査は平成13(2001)年4月24日～5月7日にかけて行われた。調査面積は260m²である。

(2) 調査結果

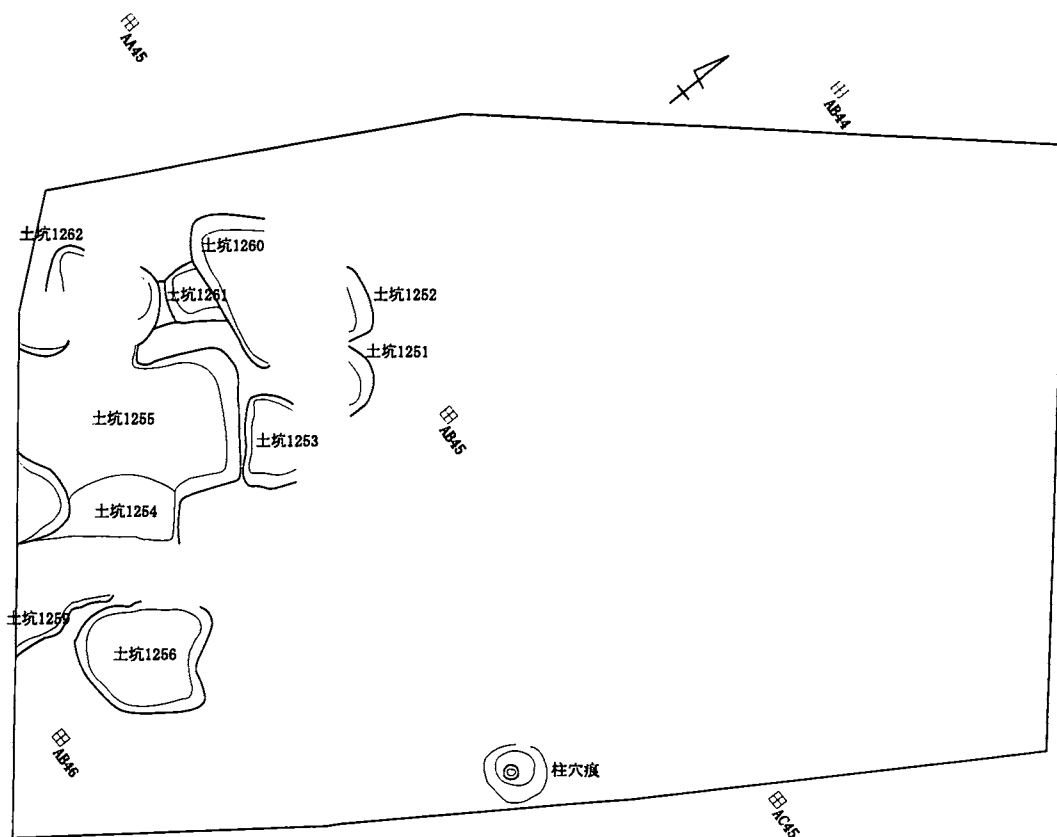
調査区の北東半分は、現代の鉄筋コンクリート基礎によって著しく破壊されており、遺構は確認されなかった。

遺構は、近代の旧病院期以前の土坑、近代の旧病院期に属する煉瓦・コンクリート基礎が確認された。

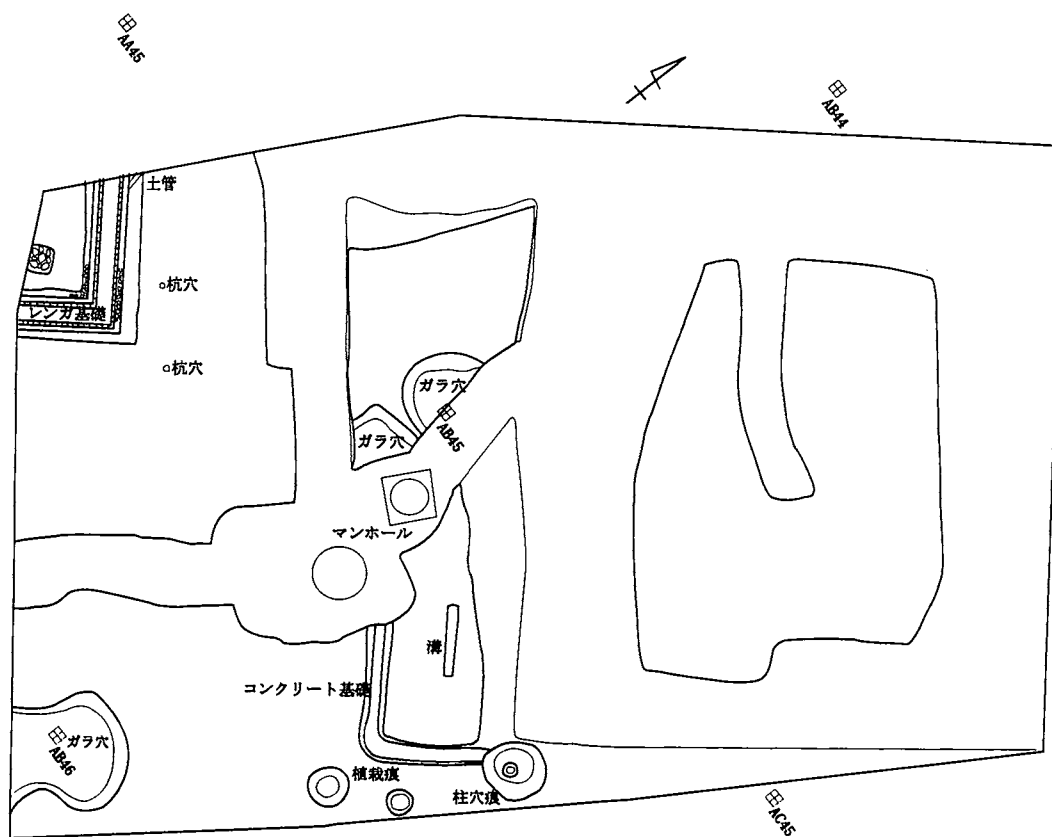
土坑は、調査区の南西部に集中的に確認された。平面形態は不定形でさまざまであるが、深さはどの穴も30～40cmである。これらの土坑は後に一時に埋められたようで、どの穴も粘土地山ブロックが斑に混じる黒色土が堆積していた。土坑は地山の肩が残っているため何回かに分けて掘削されたことがわかるが、その肩部分での堆積土の切り合いは確認できない。つまり遺構の重複は認められないということである。

この黒色土に遺物はほとんど含まれていないため、黒色土で穴が埋められた正確な時期は分らない。土坑からの出土遺物は陶磁器の小片ばかりで、出土量も全部あわせてパンケースの半分にも満たない。時期は、19世紀以降に属するものが多い。

煉瓦・コンクリート基礎は、調査区の南西端で確認された。基礎の構造は、下から栗石、コンクリート、煉瓦の順で、以前の調査で確認された旧病院の基礎の一般的な造り方と同様である。この基礎は上述の土坑を切って造られているため、土坑より新しいことが分かる。



第29図 受水槽地点 近世 (1/150)



第30図 受水槽地点 近・現代 (1/150)

受水槽地点全景



土坑1255



受水槽地点出土遺物

